

調査日:2017年3月17日、4月18日、5月16日(9:00~12:00)

科名	和名	3月	4月	5月
カモ	コブハクチョウ	52	35	40
	オカヨシガモ	8	2	
	マガモ	10		
	カルガモ	108	86	29
	オナガガモ	8		
	コガモ	179	206	9
	ホシハジロ	14	1	
カイツブリ	カイツブリ	23	20	20
	カンムリカイツブリ	28	7	
ハト	キジバト			1
ウ	カワウ	82	98	84
	アオサギ	12	9	9
サギ	ダイサギ	4	3	1
	コサギ	6	3	
クイナ	クイナ		2	
	ヒクイナ		1	
	バン	6	2	2
	オオバン	136	55	33
チドリ	コチドリ	2		4
シギ	イソシギ	1		
カモメ	ユリカモメ	47	81	
	カモメ	1	3	
	セグロカモメ	4	10	
	ニシセグロカモメ	1	1	
	大型カモメ不明種		33	
ミサゴ	ミサゴ		2	
タカ	トビ	1	1	1
	サシバ			1
カワセミ	カワセミ	6	2	5
ハヤブサ	ハヤブサ		1	
カラス	ハシボソガラス	1	2	1
ツバメ	ツバメ		3	1
ムクドリ	ムクドリ	1		
ツグミ	ツグミ	1		
セキレイ	ハクセキレイ	3		
	セグロセキレイ			1
家禽や外来種	アヒル		1	1
合計*	38種	747	669	242

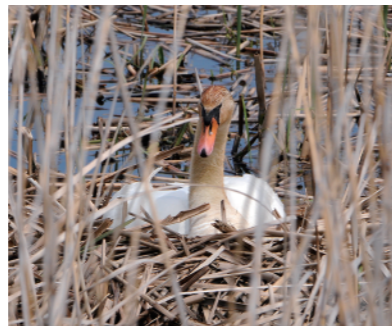
*家禽や外来種を除く



夏羽に換羽中のオオジュリン (3月)



ヒメガマを食べるオオバン (3月)



抱卵中のコブハクチョウ (4月)



カモメ類の群れ (4月)



さえざるオオヨシキリ (5月)



水田でエサを探すダイサギ (5月)

あびこ鳥だより

Summer
2017
【夏号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.47



利用案内

- 開館時間 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始(12/29~1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	600円	
	高校生・大学生	400円	

・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(付き添い1名含む)

・中学生以下の方は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ:我孫子市鳥の博物館
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3
☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639



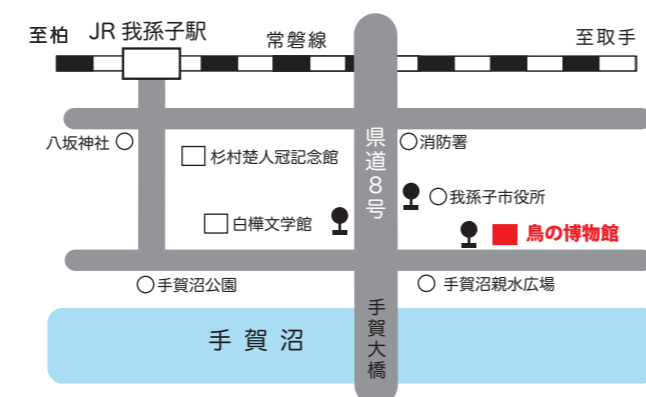
交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由

バスで「市役所」下車、徒歩5分

*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています

我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車
天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車
自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



【特集】

イソヒヨドリの内陸部進出について

【最新情報】

第78回企画展「鳥・酉・鶏・とり」がスタートします!

夏休みイベントのお知らせ

表紙の鳥 オオジョシギ

イソヒヨドリの内陸部進出について

はじめまして、2017年4月より鳥の博物館に赴任しました、学芸員の岩本と申します。我孫子市は初めてで、至らぬ点多いと存じますが、皆様から愛される博物館を目指し努力いたしますので、何卒よろしくお願いたします。

形態、生態および分布について

イソヒヨドリは、全長25.5cmで、スズメとキジバトの間くらいの大きさです。オスは美しい声で繁殖期以外にもよく鳴き、メスもたまに同様の声を出すことがあります。雌雄で羽色が異なり(性的二型といいます)、オスは頭部から背が青くて腹部がレンガ色をしているのに対し、メスや幼鳥はヒヨドリのような灰色をしていて腹部に白斑があります(写真参照)。ただし、色が似ていて、名前もヒヨドリとついでいますが、実際にはヒヨドリ科ではなくヒタキ科で、まったく別の仲間です。さらに、「イソ」という名にあるように、元々は海岸部に多く見られましたが、近年、内陸部にも進出しており、市街地でも見かけるようになってきました。

世界的な分布を見ると、del Hoyo J et al (2005) によれば、千島列島を東端として西は西アフリカまで、熱帯から北半球の中緯度にかけて広く分布しており、日本産のものは、全4亜種のうちの東アジア系の一亜種、*Monticola solitarius philippensis* (Statius Muller, 1776)という扱いになっています。他亜種も全て含めると、モンゴル東部や中央アジアなど、内陸部の岩場に生息している地域も多く、世界的に見れば、生息地が海岸部に限定されているわけではありません。日本国内では北海道から沖縄まで全国に分布しますが、北海道の個体群は冬になると南へ渡ります。

これまでの研究内容

前職の和歌山県立自然博物館では、県内におけるイソヒヨドリの分布と過去の分布記録に関する調査を行っていました。紀伊半島は大きな河川が少なく海岸部には岩場が多く、元々、イソヒヨドリが高密度で生息していたと考えられます。そして、早い時期からイソヒヨドリが内陸部に進出していたと考えられ、1981年の時点で既に、高層のコンクリートの建物の上でも繁殖していることが報告されていました(和歌山県自然保護課 1981)。

確認された地点の中で最も海岸から離れていたのは高野山(弘法大師が修行をされていたところ)で、海岸からの距離は33.5km、海拔は790mありましたが、このように和歌山県では市街地だけでなく山間部でもイソヒヨドリが見られました。内陸部での記録については、県外では1998年に富山県の立山の室堂平(標高2450m)付近でも確認された記録があり(松田 2015)、繁殖しているかどうかは別として、なわばりの探索行動では海岸部を離れ、広い範囲を飛び回っていると考えられます。

しかし、県内全市町村の過去に出版された市町村史を読むと、現在では確認できる地域であっても、市町村史の自然史編にこの鳥の記述が無い地域がいくつもありました。イソヒヨドリはオスの羽色が特徴的で鳴き声が大きく、かなり目立つことから、分布しているのに記載がないとは考えづらく、やはり内陸部については近年、新たに進出したと考えられます。

ここでは、たとえば都市の中にイソヒヨドリの営巣しやすい人工物が作られるようになるなど、内陸部の環境に何らかの変化が起こっている可能性があります。都市に進出した他の鳥としては、キジバトやヒヨドリ、ムクドリなどはより早い時期に進出していますが、それより遅いイソヒヨドリの場合には、異なる要因が関係していると考えられ、興味深いところです。

我孫子市内についても、つい最近、イソヒヨドリが市街地で繁殖するようになったという状況ですので、市内でその生態を観察し、彼らがどのような環境要素を利用しているのか調べていきたいと考えています。

引用文献

del Hoyo J., Elliott A., Sargatal J. & Christie D.A. 2005. Handbook of the Birds of the World vol.10. Lynx Edicions, Barcelona : 722-724
和歌山県自然保護課. 1981. 和歌山県の野鳥. p83. 和歌山県庁, 和歌山市
松田勉. 2015. 立山における鳥類の記録(1960~2015), 富山市科学博物館研究報告 39, 125-140



イソヒヨドリのメス(左)とオス(右)



メスの親鳥(左)にエサをねだるヒナ(右)

最新情報

第78回企画展「鳥・酉・鶏・とり」がスタートします!

2017年、酉年にちなみ、これまで人と鳥がどのような関わりを持ってきたのか、鳥に対する様々な「視点」をテーマに展示を行います。ニワトリの多様な品種の標本や、鳥が描かれた図譜などを通して、野生動物としての「鳥」、厩としての「酉」、家禽としての「鶏」、芸術の対象としての「とり」の4つのコーナーに分けて紹介します。日本原産のニワトリの他に、外国原産のニワトリの標本も多数展示します。ぜひ、ご来館ください(7/15~11/26)。



インドネシア原産のニワトリの品種
アヤム・チェマニ

ベトナム原産のニワトリの品種
ドンタオ

ニワトリの原種とされる
セキショクヤケイ



夏休みイベントのお知らせ

8月の土日祝日に毎年恒例の「夏の遊びと研究大集合2017」を開催します。夏休みの自由研究のヒントになるような工作、観察をするイベントで、毎回内容が変わります。

今年から新しく加わった「しらべてみよう! フクロウのごはん」は、普段、あまり目にする事が出来ないフクロウのペリット(消化できなかった骨や毛をかためて吐き出したもの)を実際に調べて、肉食のフクロウがどんな動物を食べているのかを知るイベントです。その他にも毎年大人気のメダカを飼育について学ぶことができる「メダカでアクリウム」や身近な場所に生息する微生物を観察する「最強の動物クマムシを探せ!」など楽しいイベントが盛りだくさんです。

また、夏休み期間中は自由研究の参考になるように、昨年度の小・中学生の鳥に関する研究作品を1階ホールに展示します(7/22~8/31)。今年の自由研究は鳥をテーマにしたい方はご来館ください。



開催日	タイトル
8月5日(土)	最強の動物「クマムシ」を探せ!
8月6日(日)	フクロウホバークラフト
8月11日(金・祝)	メダカでアクリウム
8月12日(土)	プーピーカモ笛
8月13日(日)	しらべてみよう! フクロウのごはん
8月19日(土)	フクロウホバークラフト
8月20日(日)	ゴーストミズク
8月26日(土)	プーピーカモ笛
8月27日(日)	くるくる鳥コプター

*時間や定員等の詳細は博物館ホームページをご覧ください

イベント情報

- 展示
 - 第78回企画展「鳥・酉・鶏・とり」
期間：2017年7/15(土)~11/26(日)
場所：博物館2階企画展示室
 - 鳥の科学作品展
期間：2017年7/22(土)~8/31(木)
場所：博物館1階ホール
- 講演・室内イベント
 - テーマトーク
日時：毎月第2土曜日 13:30~14:15
(9月のテーマトークはありません)
場所：博物館2階多目的ホール
定員：先着50人(参加無料)
講師：山階鳥類研究所所員

- 自然観察会
 - てがたん~自然観察会~
2017年7月~9月
時間：10:00~12:00(雨天中止)
定員：なし
集合場所：博物館入口(予約不要)
 - あびこ自然観察隊②「手賀沼のプランクトンと水鳥観察」
日時：7/25(火)、8/2(水) 9:00~15:30
場所：水の館3階研修室、鳥の博物館
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴で参加可)
定員：各20人
申込み：鳥の博物館 04-7185-2212
*7月16日より電話申し込み開始
- 自然観察会は高校生以上の方は保険料100円がかかります
館内で行うイベントは参加無料でも入館料が必要です